

筑波大学 人文・文化学群

日本語・ 日本文化学類 実習ガイド

2025

筑波大学 人文・文化学群

日本語・日本文化学類
実習ガイド

2025

INDEX

日本語／国内実習

日本語方言研究フィールド実習 I/II	01
日本語談話研究フィールド実習 I/II	02

日本文化／国内実習

日本文化研究フィールド実習 I/II	03
日本文化研究実習 I	04
日本語・日本文化共同研究 IV	

多文化共生・日本語教育／海外実習

韓国実習	05
スロベニア実習	06
マレーシア実習	07

多文化共生・日本語教育／国内実習

日本語教育実習A	08
日本語教育実習B	
日本語サポーター	09

多文化共生・日本語教育／国内実習・海外実習

国際・協働インターンシップ	10
チューター制度	

筑波日日 SEARCH

 <http://www.japanese.tsukuba.ac.jp/> 

 <http://www.facebook.com/tsukuba.nichinichi> 

 @Nichinichi 

日本語方言研究フィールド実習 I/II

科目番号：AE14G13/23 (3単位)

担当教員：石田 尊

標準履修年次：2-4年次

実施学期・曜時限：春AB 金6 / 夏季休業中 集中 / 秋AB 金6

履修者数：7名程度



茨城県の県西・県南地域で話されている日本語(方言)の調査を行う実習です。春学期の期間に、フィールドに出向く前に理解しておくことが必要な基本的な事柄を確認し、夏季休業中に平日5日間のフィールドワークを行います(調査地域はつくば市の近隣市町村のため、5日間とも日帰りの予定)。秋学期の期間は、夏の調査で得られた成果を整理・検討し、過去の調査結果との比較などを行います。日本語や方言というものについての理解を体験的に深め、地域の日本語の変化の実際にも触れることができます。

履修の流れ

事前学習

- 春AB・金6限(全10回)

フィールドワーク

- 夏季休業中(9月前半の予定)、日帰り5日間

事後学習

- 秋AB・金6限(全10回)



対象地域の音声・音韻、語彙、文法に関する調査を行います。2019年度・2022年度は常総市、2023年度は坂東市にご協力をいただき、地元ご出身の話者の方にお話を伺いました。

その他

- 宿泊日数：日帰り(5日間とも大学にて集合・解散となります)
- 費用等：食事代程度。大学までの交通費等はお負担ください。

日本語談話研究フィールド実習 I/II

科目番号：AE14G33/43 (3単位)

担当教員：澤田 浩子

標準履修年次：2-4年次

実施学期・曜時限：春C 月5-6限 / 夏季休業中 集中

履修者数：12名程度



日本各地の農山漁村を訪れ、地域社会における言語コミュニケーションについてフィールドワーク調査を行います。現地で合宿しながら自分たちの足で歩き、集落の中に入って談話を収集します。聞き取りを通して、地域の生業や交通、祭礼や観光の変化とともに、ことばがどのように変わりつつあるのかを学んでいきます。また、フィールド調査の方法や、フィールドの文脈の中でコミュニケーションを分析する視点を身につけることができます。

履修の流れ

履修説明会 6月上旬

- 希望申請締切 6月中旬
- 選考結果通知 6月下旬

事前学習 春C 月5-6限

- 方言談話調査の方法(講義)
- 文献による地域史の学習
- 調査テーマの決定

現地活動 9月 4泊5日

- 集落内の巡検
- 地域の方への聞き取り
- 祭礼や地域行事の見学など
- 宿舎でのミーティング、データ整理

事後学習 秋AB (「日本語の談話演習」履修)

- 書き起こしとデータ分析
- 文献レビューとディスカッション
- レポート作成

その他

- 宿泊日数：4泊5日(現地集合・現地解散)
- 費用等：宿泊費、食事代、交通費は自己負担



日本文化研究フィールド実習 I/II

科目番号：AE14G53/63 (3単位)
 担当教員：鈴木 伸隆
 標準履修年次：2-4年次
 実施学期：春C木5-6 / 夏季休業中 集中



この授業では、事前学習で得た知識をもとに、実際に調査地に足を運び、地元の方々に聞き取りを行い、その内容を報告書にまとめるという実践的なトレーニングを通して、調査の基礎を学ぶことを狙いとしています。実習で扱うテーマは、観光や地域振興、子育て、高齢化といった今日的な社会問題から、文化(民俗・芸能・食文化)や経済活動(地場産業)まで、自分の興味あるものを選択します。自分の目で見て、社会の様子を肌で感じて、足で情報を得ることで、知識は初めて自分のものになることを体験してください。

履修の流れ

履修説明会 5月上旬

- 希望者申請締切 5月下旬
- 選考結果通知
6月上旬(人数制限あり。応募者多数の場合は、日本語・日本文化学類上級生を優先)

事前学習 春C 水5・6

- 調査地に関する文献講読
- 調査テーマの絞り込み

現地調査 夏季休業中 (9月第1週、変更の可能性あり)

- 聞き取り調査(4泊5日)

事後学習 11月下旬～翌年1月末

- 報告書原稿提出
- 報告書原稿推敲



日本文化研究実習 I

科目番号：AE13H43 (1単位) 標準履修年次：2-4年次
 担当教員：葛西 太一 実施学期・曜時限：春AB木5-6
 履修者数：8名まで(茶道未経験者に限る)



日本の伝統的な文化を代表する「茶の湯」の歴史を学び、裏千家の作法に則って盆略点前を習います。実習は茶室のある2C109にて行い、専門の道具を用いて実際にお茶を点てます。実習後には友人を招いて自ら茶会を開き、習得した盆略点前を披露することによって、茶の湯の精神の体得を確認します。人数調整のため初回授業の出席は必須、実習中の欠席や遅刻・早退は厳禁です。なお、実習で使用する扇子・帛紗や抹茶・菓子代等に1万2千円程度の実費負担を要します。

履修の流れ

初回授業 4月中旬 春AB木5-6

- 実習の概要説明 ● 受講生の人数調整

茶道実習 4月下旬～6月下旬 春AB木5-6

- 盆略点前の習得 ● 盆略点前の試験

事後学習 7月上旬～9月下旬

- 茶会への参加
- 自身で茶会を開催して友人を招待する
- レポート作成



その他

- 費用等：1万2千円程度(扇子・帛紗、抹茶・菓子代、茶会参加費等)
- 初回授業の出席は必須、実習中の欠席や遅刻・早退は厳禁

日本語・日本文化共同研究 IV

科目番号：AE14A42 (1単位) 標準履修年次：2-4年次
 担当教員：豊田 紘子 実施学期・曜時限：秋A 集中 (10/11, 18, 25)
 履修者数：25名程度



日本の地域社会を理解するうえで基本となるマチとムラについて、フィールドワークを行います。教員が現地を解説するとともに、留学生と日本人学生からなるグループが事前に調査した内容を発表し、歴史的・文化的な景観やそこに展開する生活文化の特色について考察します。これまで筑波山神社参道の集落や、つくば市内の農家集落、新大久保駅周辺などを訪れました。

履修の流れ

1日目

- 事前学習

2日目・3日目

- 現地見学

事後学習

- 期末レポートの作成



その他

- 現地見学：2日間(いずれも日帰り、現地集合・現地解散)
- 費用等：交通費、食事代等は自己負担

韓国実習

科目名：日本語・日本文化国際研修Ⅲ
 科目番号：AE14E33 (3単位)
 担当教員：朴 宣美
 標準履修年次：2-4年次
 実施学期・曜時限：春B水2 / 秋A集中
 履修者数：5～7名



韓国のソウル、順天、釜山、大邱などにある教育機関(大学校や高等学校) および博物館・歴史資料館を訪問してフィールドワークを行います。特に韓国の大学生、高校生、歴史教員、「旧日本軍慰安婦問題」の解決のために活動している方々との交流を通して、日韓の近現代史における様々なテーマ(歴史問題、歴史教育、相互認識など)について思索し、捉え直す機会を持ちます。

履修の流れ

履修説明会 4月末・5月初旬

- 受講申請締切 5月中旬
- 選考結果通知 5月下旬

事前学習 春B

- 韓国実習報告書や研究書などを用いて学習
- 調査テーマについて発表
- 東京都内の歴史資料館で調査活動

現地活動

- 釜山大学校、啓明大学校、順天大学校 韓国外国語大学校で調査活動
- 釜山市の高等学校で調査活動
- 戦争と女性人権博物館などで調査活動

事後学習 秋B

- 報告書の作成と発表



その他

- 実施時期・宿泊日数：10月中下旬・7泊8日を予定
- 費用：17万円程度(航空券・現地の交通費・宿泊費など)
- 奨学金：海外留学支援事業(はばたけ!筑大生)の募集に採用された場合に支給あり

スロベニア実習

科目名：日本語・日本文化国際研修Ⅰ/Ⅱ
 科目番号：AE14E13/23 (3単位)
 担当教員：澤田 浩子
 標準履修年次：2-4年次
 実施学期・曜時限：秋C水5-6 / 春季休業中 集中
 履修者数：5名まで



スロベニア共和国の首都にあるリュブリャナ大学を訪問し、文学部日本語コースの学生と2週間の異文化理解プログラムを行います。文化的・教育的背景が異なる同世代の学生との交流を行う中で、英語や日本語を通じたコミュニケーションにおける相互理解の力を身につけます。また、大学だけでなく、さまざまな教育機関で行われている海外の日本語教育事情の一端を知る機会にもなります。

履修の流れ

履修説明会 5月上旬

- 希望申請締切 5月下旬
- 選考結果通知 6月上旬

事前学習 秋C水5-6限

- スロベニア概説(講義)
- プレゼンテーションの準備
- 日本語教壇実習の準備

現地活動 3月3週間

- 日本の言語・文化に関するプレゼンテーション
- 現地授業での協働学習や市内・郊外見学
- スロベニア語入門コース
- 青少年文化センターでの日本語教壇実習

事後学習 3月末

- レポート作成

その他

- 宿泊日数：約3週間
- 費用等：約40万円(航空券代30万円、宿泊費8万円、海外旅行傷害保険等)
- 奨学金：海外留学支援事業(はばたけ!筑大生)の募集に採用された場合に支給あり



マレーシア実習

科目名：日本語教育国際研修
 科目番号：AE14C23 (3単位)
 担当教員：渡部 宏樹、澤田 浩子
 標準履修年次：2-4年次
 実施学期・曜時限：通年 応談
 (渡航は1月、10-12月に事前学習を行う)

履修者数：4名まで



マレーシアのジョホール・バル(シンガポールの対岸)に約4週間滞在し、日本語教育実習を行います。マレーシア工科大学(UTM)ならびに現地中等教育機関にて初習者向けに授業を行うとともに、文化交流会に参加し、英語や日本語を通じたコミュニケーションにおける相互理解の力を身につけます。また、大学だけでなく、さまざまな教育機関で行われている海外の日本語教育事情の一端を知る機会にもなります。

履修の流れ

履修説明会

- 希望申請締切 5月下旬
- 選考結果通知 6月上旬

事前学習 秋A・B

- マレーシア渡航準備
- 教案の準備
- 文化交流会の準備

現地活動 1月 約3週間

- マレーシア工科大学での授業見学・教壇実習・文化交流会
- 現地中等教育機関での授業見学・教壇実習
- ジョホール・バル市内の見学

事後学習 3月末まで

- レポート作成

その他

- 宿泊日数：約3週間
- 費用等：約25万円(航空券代18万円、宿泊費6万円、海外旅行傷害保険等)
- 奨学金：国際交流基金(日本語パートナーズ派遣プログラム)の募集に採用された場合に支給あり



日本語教育実習 A

登録日本語教員(実践研修)

科目番号：AE14C73 (3単位) 標準履修年次：2-4年次
 担当教員：田中 祐輔・日高 晋介・鏡 耀子 実施学期・曜時限：春AB 水4-5限/春C 随時
 履修者数：受講生数次第で履修を制限することがある



コースデザインや教材作成、教授法の実践的理解と日本語クラスの授業見学や分析、教案作成、模擬授業、教壇実習を通して、日本語教育に必要な資質・能力・技能、および、多文化共生や異文化間理解を支援する力を身につけることができます。「日本語教育実習A」または「日本語教育実習B」の3単位を修得し、最終修了審査に合格すると修了証が発行され、「登録日本語教員」資格取得の要件である「実践研修」を修めたことが認められます。

履修の流れ

事前学習 春AB 水4-5限

- オリエンテーション ● 授業見学
- ニーズとレディネスの調査
- 授業準備(コースデザイン・教案作成など)
- 模擬授業と振り返り

現地活動 春C随時

- 教壇実習(1人2回)

事後学習

- 全体総括と振り返り ● レポート作成



日本語教育実習 B

登録日本語教員(実践研修)

科目番号：AE14C83 (3単位) 標準履修年次：2-4年次
 担当教員：澤田 浩子・鏡 耀子 実施学期・曜時限：春AB 水4-5限/春C 随時
 履修者数：受講生数次第で履修を制限することがある



高等学校(茨城県立結城第一高等学校)に在籍する外国にルーツのある生徒への教育実践を通して、日本語指導の方法と技術を学ぶ授業です。授業デザインや教案・教材作成、指導法など、日本語教師として必要なスキルだけでなく、多言語・多文化を背景とする高校生との交流の中で、共生社会に必要な視野やコミュニケーション力を身につけることができます。

履修の流れ

事前学習 春AB 水4-5限

- オリエンテーション
- 授業見学等(高校訪問3回程度)
- 授業準備 ● 模擬授業と振り返り

現地活動 春C随時

- 教壇実習(高校訪問1人2回)

事後学習 7月下旬-8月

- 全体総括と振り返り ● レポート作成



茨城県教育委員会日本語教育支援事業 日本語サポーター

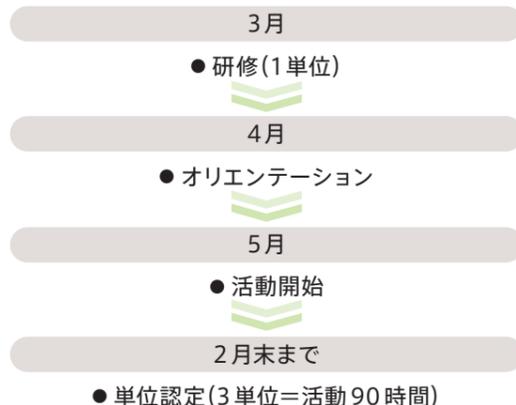
科目名：外国人児童生徒支援研究I/II →
外国人児童生徒支援実習I/II
科目番号：AE14H12/22 (1単位) →
AE14H 23/33 (3単位)
担当教員：澤田 浩子
標準履修年次：1-4年次
申請方法：7月期「外国人児童生徒支援研究I」に履修登録
3月期「外国人児童生徒支援研究II」に履修登録



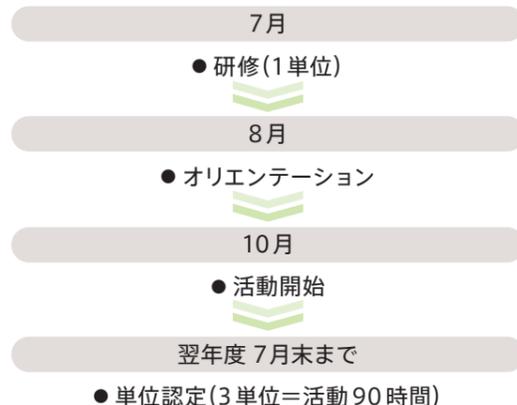
日本の学校教育の現場では、外国にルーツを持つ子どもたちが増えています。この授業では、茨城県の小中学校と連携し、「日本語サポーター」として子どもたちにオンラインで日本語学習支援を行います。長期にわたって子どもたちと向き合い活動を続ける中で、これからの多文化共生社会に必要な教育や言語環境のあり方について考えを深めていくことができます。茨城県教育委員会日本語教育支援事業の一環で、2020年度から継続しています。

履修の流れ

春季サポーター募集



夏季サポーター募集



国際・協働インターンシップI/II

科目番号：AE14F43/53 (3単位) 実施学期：年間を通して申請可
担当教員：澤田 浩子 申請方法：事前に「活動計画書」を提出。
標準履修年次：2-4年次 詳細はmanaba「国際・協働インターンシップI」に自己登録をして確認のこと

多文化共生に関わる社会的活動に対して、インターンシップとして単位を認定する科目です。下記の要件を満たす90時間以上の活動に対して3単位を認定します。活動は、自身で各種団体を通じて参加申込することを基本としますが、担当教員から紹介することも可能です。

活動の要件

- 原則として、主催団体や受入機関が公共的な機関であること
- 専門家・実務家からの指導・助言が得られる活動であること
- 交通費等の実費支給を除いて、無給・無償の活動であること

これまでの単位認定例（*は担当教員を通じて紹介可）

- 京都府和束町での茶葉農家国際ホームステイ（主催団体：NICE）
- ポリビアでの学習支援・文化普及活動（主催団体：ICYEジャパン）
- つくば市立小中学校での日本語教室ボランティア（学校派遣）*
- リュブリャーナ大学での日本語教育指導補助（オンライン）*



チューター制度

日本語・日本文化学類では、毎年多くの留学生を受け入れています。チューターは、留学生の学習の補助を中心に、日常生活のサポート（学内外の案内、諸手続きの同行、情報提供など）を行います。チューターを体験することによって、日常的な交流の中から日本語・日本文化の伝達や異文化理解について学ぶことができます。



履修の流れ、実習内容等

毎年秋学期・春学期の留学生の来日に合わせて、留学生の指導教員が授業内での案内等を通じてチューターを募集します。チューターを希望する人は、直接教員に連絡をしてください。

秋学期入学の場合 （短期留学生、日本語・日本文化研修留学生、Japan-Expert生）

チューター依頼期間：
10月～1月中で上限30時間、謝金1,000円/時

- 6～7月頃：留学生の指導教員によるチューターの募集（授業内での案内等）
- 8～9月：チューターの決定
- 9月中旬～下旬（例年9月20日前後）：留学生の渡日
宿舎入居手続き、市役所での手続き、銀行口座の開設等
- 9月下旬（例年9月27日前後）：留学生オリエンテーション
オリエンテーションへの同席、授業履修登録のサポート、チューター実施願の提出
- 10月～1月：日本語学習の補助、会話パートナー、日常生活・課題のサポートなど

春学期入学の場合 （短期留学生、学類正規生）

チューター依頼期間：
4月～9月中で上限30時間、謝金1,000円/時

- 12～1月頃：留学生の指導教員によるチューターの募集（授業内での案内等）
- 2～3月：チューターの決定
- 4月上旬（例年4月5日前後）：留学生の渡日
宿舎入居手続き、市役所での手続き、銀行口座の開設等
- 4月中旬（例年4月10日前後）：留学生オリエンテーション
オリエンテーションへの同席、授業履修登録のサポート、チューター実施願の提出
- 4月～9月：日本語学習の補助、会話パートナー、日常生活・課題のサポートなど

※留学生の渡日時は特にチューターとして重要です。必ず日程調整をしてください。 ※チューター依頼期間の上限や謝金については、変更の可能性があります。

その他

- 留学生の履修に関しては、オリエンテーション等で説明します。●英語が話せなくても大丈夫です。
- 詳細については、「チューターのためのマニュアル」もご参照ください。

<https://www.tsukuba.ac.jp/campuslife/support-international/tutor/pdf/tutor-manual-ver23-ja.pdf>